

Report on The 10th Asia-Pacific Microscopic Dentistry Meeting(APM)

Takenori Uto

Private practice in Shizuoka, Japan

APM IN TOKYO

第10回Asia-Pacific Microscopic Dentistry Meeting(APM)は2024年12月8日(日曜日)に東京の日本歯科大学 生命歯学部 富士見ホールにて開催された。APM (Asia-Pacific Microscopic Dentistry Meeting)は、マイクロスコープ歯科治療の最も熱いエリアであるアジア環太平洋エリアの国々から若いマイクロデンティストが参加し、プレゼンテーションを繰り広げ、マイクロスコープ歯科治療の普及と発展の担い手たちが集うディスカッションする場です。

記念すべき10周年を迎えるAPMは、大会長山口文誉先生と実行委員長武川泰久先生を中心に『God is in the detail.』(神は細部に宿る)をメインテーマとして開催いたしました。この言葉は近代建築の三大巨匠の1人である、ミース・ファン・デル・ローエが残した言葉です。「こだわった細部こそが作品の本質を決める」、「ディテールを疎かにしては全体の美しさは得ることができない」といった思いがこめられています。マイクロスコープを使用し治療にあたっている医療人の心の中にはいつもこのような熱い思いがあると思います。(図1)

今回は、記念すべき10周年に相応しい見どころ満載の「細部へのこだわり」がたくさん詰まった数々の講演が開催された。新進気鋭のマイクロデンティストによる最先端のマイクロスコープ歯科治療、日本顕微鏡歯科学会の先生方による講演、歯科衛生士によるマイクロスコープを使用した最新ハイジンワーク、低侵襲歯周治療のコラボレーションそして、特別企画として本会の発起人である、鈴木真名先生が軟組織移植のデモンストレーションを行いました。APMは、アジア環太平洋のマイクロを中心に「細部へのこだわり」を持つ各分野のプロフェッショナルが一堂に会しました。各々の専門分野のプロフェッショナル性を研ぎ澄まし、さらに飛躍するためには、他分野のこだわりも知ることができた有意義な講演をこのレポートで内容を報告します。(図2)

Keynote lecture

Fumiyo Yamaguchi, DDS

『Clinical Periodontal Microsurgery』をテーマに低侵襲歯周治療をわかりやすくレクチャーをしていただきました。特にマイクロスコープを使用した歯周外科では歯肉溝切開を行う際には、ブラインドタッチや歯肉辺縁を傷つけてしむことが多いです。そのためミラービューとダイレクトビューのデュアルビューにて行うことを推奨しており歯周外科再生療法の症例提示しながらわかりやすく解説していた。(図3)

Session 1

『Japanese Root Canal Treatment in the Micro-Native Generation』

Akito Kasahara, PhD (図4)

『The Significance of Microscopes for Accurate Digital impressions』

Masato Kimura, DDS (図5)

Session 2

『Maintenance Approaches for Class II Furcation Involvement of the Maxillary First Molar Following Periodontal Tissue Regeneration Therapy』

DH Sarasa Fujii (図6)

『SRP techniques under the dental microscope.』

DH Miki Ito (図7)

Session 3

Special Lecture

『Describe the Ridge augmentation technique on the model work shop』

Masana Suzuki, DDS (図8)

今回初めての企画として鈴木真名先生によるマイクロスコープを用いたリッジ・オーグメンテーション・テクニックのデモンストレーションを行いました。リッジ・オーグメンテーション・テクニックを用いた素晴らしい臨床ケースのプレゼンテーションを供覧し、実際の手技をマイクロスコープを使用したライブデモンストレーションを行っていた。マイクロスコープの動画と俯瞰した位置からの動画とプロジェクターに映し出されとてもわかりやすく会場の参加のみなさんも真剣な眼差しを注いでいました(図9・10)

Session 4

『Pink esthetic reconstruction: Details from basic to advance』

Wong Chiman, DDS (図11)

『A Case Series of Microscopic Apical Surgery with Dynamic Navigation System』

Lin Chun pei, DDS (図12)

『Periodontal Regenerative Surgery in Soft Tissue Deficiencies Cases』

Cheng Hao-Tien, DDS (図13)

Session 5

『intracanal Adhesive Treatment and Intentional Replantation with Vertical Root Fracture using Zeiss EXTARO 300』

Katofumi Koyanagi, DDS, PhD (図14)

『A case report: papilla reconstruction with microscopic magnification』

Hiroki Kawai, DDS (図15)

『Efficacy of the Microscope in Periodontal Surgery and our new technique』 Yudai Ogawa, DDS (図16)

『Various periodontal treatments using a microscope and an Er:YAG laser』

Dai Kawanabe, DDS (図17)

今回APMに参加し150人を超える参加者が集まりました。また海外からの参加者も多く、台湾からは11名の先生方が来日した。(図18-1、図18-2)全ての演者やアナウンスも全て英語で行われ、国際的な大会を日本で開催できたことはとても誇らしいことだと感じます。(図19)

来年の2025年12月14日(日曜日)第11回Asia-Pacific Microscopic Dentistry Meetingは台湾の台北で行われることが発表されました。次期大会長であるEason Chen先生から次回大会のをメインテーマは『Details make perfection』であり、実行委員長と実行委員のメンバーを紹介し次期大会も非常に楽しみです。(図20)

最後にJAMD会長も三橋晃先生から閉会の挨拶をいただきAPMが閉幕しました。(図21・22)



図1 第10回Asia-Pacific Microscopic Dentistry Meeting(APM)



図2 司会を務める中野忠彦先生



図3 大会長である山口文誉先生によるKeynote lecture



図4 Akito Kasahara, PhD



図5 Masato Kimura, DDS



図6 DH Sarasa Fujii



図7 DH Miki Ito



図8 Special Lecture
『Describe the Ridge augmentation technique on the model work shop』 Masana Suzuki, DDS



図9 Live Demonstration-Soft tissue management
マイクロスコープの動画と俯瞰した位置からの動画とプロジェクターに映し出されている



図1 O Masana Suzuki, DDS

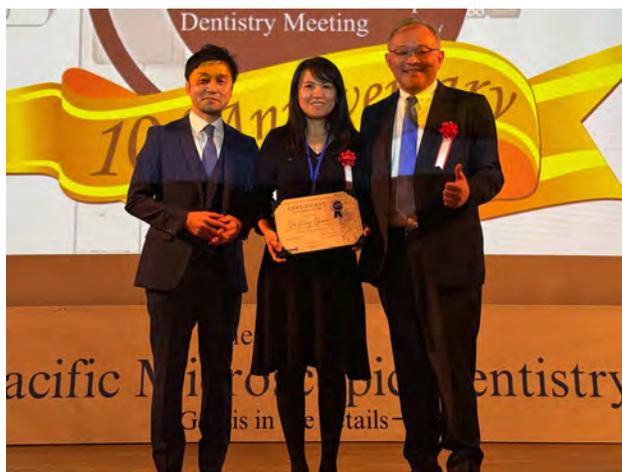


図11 Wong Chiman, DDS



図12 Lin Chun pei, DDS



図13 Cheng Hao-Tien, DDS



図14 Katofumi Koyanagi, DDS, PhD



図15 Hiroki Kawai, DDS



図16 Yudai Ogawa, DDS



図17 Dai Kawanabe, DDS



図18-1 台湾から来日したメンバー



図18-2 台湾の講演者と山口文誉先生と武川泰久先生



図19 第10回APM実行委員会メンバーと講演者達



図20 第11回Asia-Pacific Microscopic Dentistry Meeting



図2 1 JAMD会長 三橋晃先生



図2 1 懇親会